菊岡保人の水彩画
～細部に思いをこめて～

Size：530×455㎜（F10）

「ダルマ市」

縁起物のダルマ市は一般に１月の初め頃に行われますが皆さんの所では如何でしょうか。

だるま（達磨）と言われる人物は、５世紀末から６世紀初め頃のインドから中国に仏教を伝えた僧侶で、「壁のように動じない境地で座禅をした」と伝えられ、この壁面座禅を長く（９年）したことから手足を失くしたという伝説が生まれたようです。

この仏教は鎌倉時代に禅宗として伝来し、達磨大師は掛け軸や札に一筆書きなどで描かれました。今日親しんでいる丸味のあるダルマ人形は、室町時代に伝来した人形「不倒翁（起き上がり小法師）」をヒントに江戸時代に作られました。ちなみに現在出回る全体の８割を占める高崎ダルマは、1800年代の初め群馬県高崎市の少林寺達磨寺９代目和尚が木型を作り、張子のダルマを作らせたのが始まり等の説があります。

絵のダルマ市は、最も遅い時期に当たる３月３日の東京・深大寺の風景です。人々は願い事を書いたダルマを入手し、僧侶に梵字「阿」を片目（左）に入れてもらい願い事の成就を託します。

ダルマさんを沢山描いて、私も手描きするダルマ師（作り手）の弟子に少しはなれたかと思うほどでした。良いことがあればと密かに願っています。どうぞ今年が皆様にとって良い年でありますように。

菊岡　保人